

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」東茶屋校		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 21日		2025年 1月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2024年 12月 21日		2025年 1月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	東茶屋校ではブラジル人の職員さんを配置しており、ポルトガル語言語に対応した療育や相談等を受付けております。	日本人の職員さんも一緒に保護者への申し送りやポルトガル語に触れる機会を作り、日本人の職員でもブラジル人の保護者への申し送りができるように周囲もフォローをしております。	翻訳機等の導入により、より密なコミュニケーションを、日本人、ブラジル人の保護者と職員ができるように、環境整備を行い、幅広く対応できるように努めています。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	言語の壁があり受け取り間違いや伝わり間違いが起こることがあり、大人同士や子ども通しでも円滑なコミュニケーションができるようにしていく必要がある。	言語の壁、文化の違いでお互いの理解や尊重が必要であるため、お互いのフォローをしていく事、翻訳を屈指した対策が必要。	翻訳機の導入や、日本語とポルトガル語の勉強が必要と考えております。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どものサポート教室「きらり」東茶屋校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 16

回収数 16

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16					活動に合わせて物を置く場所を工夫して広く見渡すことができるように工夫をしています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16				もう少し手厚い対応人数を確保してほしい。	職員の専門性向上の為に、研修の取り組みを強化しています。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14			2	もっと広い空間が用意できると、うれしい。	活動に合わせて物を置く場所を工夫して広く見渡すことができるように工夫をしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16					感染症が心配される世の中で、清掃や整理整頓をしっかりと取り組んでいます。
適切 な 支 援 の 提 供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16				日頃困ったことなど、細かく聞いてくれる。	保護者様や利用者様に寄り添った計画を作成する為に、しっかりとお話を伺います。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15			1		会報やメール連絡等、保護者に伝わりやすい物で周知できるようにしていきます。
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14	1		1		保護者様や利用者様に寄り添った計画を作成する為に、しっかりとお話を伺います。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13	1		2		言葉の壁もありますが、伝わりやすいように、親身に対応していきます。また、どのような職員でも、しっかり対応が出来るように徹底をしていきます。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	1		1		支援計画に沿った支援、保護者との連絡を密に行っています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	1				保護者との連絡を密に行い、支援内容の幅を広げていきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	11	1		4	交流はないですが不満はありません。	国籍や感染対策の一環で開催が出来ませんでした、時期を見て行っていただきたいと思います。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16					言葉の壁もありますが、伝わりやすいように、親身に対応していきます。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15			1		言葉の壁もありますが、伝わりやすいように、親身に対応していきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	3		5		言葉の壁もありますが、手助けになることができるように、親身に対応していきます。
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	16	1			良く連絡をもらえて、申し送りをしてくれるから、ありがたい。	メールや架電にて保護者が相談しやすい環境を作っています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15			1		定期的な話し合いを有意義に出来るように、しっかりと対応をしていきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16					言葉の壁もありますが、傾聴と親身に対応していきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	3		7	国籍が異なり交流は難しいが、不満はありません。	国籍や感染対策の一環で開催が出来ませんでした、時期を見て行っていただきたいと思います。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	1		2	言葉の壁もありますが、伝わりやすいように、親身に対応していきます。また、どのような職員でも、しっかり対応が出来るように徹底をしていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16				定期的にメールやコミュニケーションアプリで連絡を取ってくれて、助かる。保護者がいつでも連絡をしやすいように、またどのような職員でも、しっかり対応が出来るように徹底をしていきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15	1			会報の発行を検討して定期的な情報の発信ができるようにしていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	1		1	会報等、保護者に伝わりやすい物で周知できるようにしていきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11		2	3	会報等、保護者に伝わりやすい物で周知できるようにしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	1	1	2	訓練を行う日程やその日の様子をお伝えする中で保護者に伝わりやすく、周知できるようにしていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	1		2	会報等、保護者に伝わりやすい物で周知できるようにしていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15			1	会報等、保護者に伝わりやすい物で周知できるようにしていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16				安心して利用が出来るように、合理的な配慮に努めています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15	1			利用に慣れていない児童が不安で泣いてしまう為、保護者に安心して頂けるように対応を話し合っていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16				成長できたことがたくさんあり、感謝しております。事業所の利用を満足して頂けるように、一人ひとりに合わせた療育を実施していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」東茶屋校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令に定められたスペースと利用定員を厳守する。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		体調不良等考慮して職員と話し合う。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		整理整頓を心掛けて室内の環境整備を随時、職員と話し合う。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃と机の配置を事前に話し合い、活動に合わせた配置にする。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		利用児の状況を観察して必要に応じて個別の取り組みを行う事が出来るようにする。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々の全体会議を行い、業務改善に繋げる。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		アンケートの中で上がった課題を話し合い、業務改善に繋げる。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の全体会議を行い、業務改善に繋げる。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		感染症や個人情報に注意しつつ配慮を行いながら、検討を行う。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的同じきらり集まり、意見交換や研修を行う。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HP等で支援プログラムを公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		初回、更新時に利用児の様子、保護者の要望を丁寧に伺い、記入する。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保護者の要望、指導員の見解を聞き取り作成し、支援後の振り返りや保護者とのお話の中で随時見直しを行う。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画は職員間で共有して支援内容の確認を行う。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		初回、更新時に利用児の様子、保護者の要望を丁寧に伺い、記入する。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		利用児や保護者の聞き取りから、必要な事柄を相談支援員へ伝え、支援計画へ反映させている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		モニタリングやサービス担当者会議、日々の会議にて検討を行う。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	職員間でプログラムの計画を行い、臨機応変に対応をしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	利用児の状況を観察して必要に応じて個別の取り組みを行う事が出来るようにする。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	朝礼の時間を使い、確認を行う。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援内容の振り返りを行い、職員間で反省点と良い点を話し合う。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	記録を支援後に書き込み、支援の振り返りと改善に繋げる。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	6か月に1度、行う。また、要望があれば随時取り組んでいます。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	ブラジル人や日本人、双方が意見を出しやすい環境作りを行う。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	必要に応じて、通院や保護者面談へ付き添い、支援の検討が出来るようにする。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	保育園や幼稚園の関係機関と連絡を取り合い協力体制が出来るようにしています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	進路を事前に伺い、必要に応じて、支援体制や協力体制を整える。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	児童発達支援センターへ必要に応じて連絡や支援様子のお手紙を同封して送り、必要なアドバイスや配慮の助言を頂いております。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		国籍の違いや感染症に配慮を行いながら、検討を行う。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	保護者と電話やメールでやり取りをして、状況把握や発達課題について理解できるようにしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	保護者の相談や利用児を観察して気になる事を伝えて、対応の仕方を一緒に考えていく。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に読み合わせを行い、質問や疑問点の解消に努めている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	言葉の壁もありますが、保護者や利用児の思いを傾聴し、一人ひとりに合わせた支援内容を作成が出来るように取り組んでいます。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		言葉の壁もありますが、丁寧な説明を行い、伝わるようになってくるように努めております。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		モニタリング以外にも家庭の様子を確認して必要な話し合いの場を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		国籍の違いや感染症に配慮を行いながら、検討を行う。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談があった際には状況を確認して、お話を親身に伺い対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		保護者との連絡は状況によってメールでのやり取りを行い、イベントや情報を発信している。	定期的な会報は発行していないため、今後の発行を検討していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報に関わる資料は、鍵のかかる書庫に保管している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		電話でのやり取りが難しい保護者は手紙やメールにて情報伝達を行う。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		利用児への配慮や感染症に注意しつつ、開催の検討を行う。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		月に1回、会議の中でマニュアルで想定したことを話し合い、訓練を行う。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPの策定と随時の見直し、避難訓練を月に1度、取り組んでおります。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者へ生育歴とともに、聞き取りをしっかりと行う。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者へ生育歴とともに、聞き取りをしっかりと行う。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定し、必要に応じて見直しと事業所内の危険個所のチェックを適時個々で行っております。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		言葉の壁もありますが、丁寧な説明を行い、伝わるようになってくるように行っております。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを想定して、会議の際に議題として話し合う。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		月に1度、職員で虐待に関する話し合いや、研修会に参加する。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		重要事項説明書へ記載、マニュアルや記録表、同意書を作成し、必要な児童に関して保護者へ説明し了承を得ています。		